

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホームいつくしみの郷 1F		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	平成26年1月30日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyouvoCd=2278300311-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成26年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院がすぐ近くにあり、祝祭日、平日、夜間にかかわらず24時間対応の医療連携ができています。平口周辺には豊かな田園風景があり、のんびりと生活できる静かな環境にある。毎月季節に合った行事や外出を取り入れ、毎月写真付きのおたよりを利用者及びご家族に発行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が病院であることからの医療体制の安心と職員の朗らかで丁寧な対応が自慢の事業所です。糖尿病の利用者への食事提供及び環境に気遣う様子や、入退院からの利用者がミキサー食から一口サイズなら固形摂取できるようになったケースなど、看護師である管理者の下、裏付けのある確実な取り組みが行われています。また、恒例行事のいちご狩りをはじめ月2回の外出支援は利用者本人だけでなく、家族の満足にもなっていることが外部評価のアンケートでも確認されていて、事業所が力を入れていることの一つです。昨年は重度化率が高くなりいったん実施が減りましたが、今年は気持ちを新たにに取り組む予定です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気持ちの良い生活」を理念とし、玄関に掲示しながら共有している。1人1人にとって気持ちよく生活できるように援助している。	プラン作成といった職員が集う場では、理念が話材となるほど浸透しています。長く働く職員が増えるなか、それでも馴れ合いを出さずに利用者本位のケアがあると管理者は捉えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流はあまりできていない。散歩などの外出で会った時にあいさつを交わしている。2か月に1度「いつくしみ便り」を町内に配っている。	2ヶ月に1度発行のいつくしみ便りのほか、母体と合同で納涼祭も開催され地域に向けた発信に努めています。生徒の福祉体験も継続していますが、本年度は看護実習生も受入れており、さらなる前進がみられます。	地域からの出入りが日々活性化するよう、ボランティアの受入を増やすことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「いつくしみ便り」を配ったり、運営推進会議を通して区役所の方々と連携をとっている。中学生や高校生などの職場体験を受け入れ、これからの介護現場での担い手の育成に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居の状況、最近の入居者の方々の様子を伝えている。	自治会長、民生委員、地域包括支援センター・区役所職員、家族代表の参加を得て、隔月開催が成されています。具体的な事案を通して方針を理解してもらえ、貴重なアドバイスもあり、事業所の運営に役立っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、質問や相談をしている。	運営推進会議に毎回参加してもらっていて、また議事録も届けているため、顔なじみとなり相談しやすい関係にあります。介護相談員の来訪もあり、利用者のよき話し相手として、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。玄関の自動ドアは出るとすぐ車通りの激しい道路で危険なためにタッチ式になっている。いつでも外に出られるよう行きたい様子があれば一緒に出ている。	エレベーターも玄関ドアも職員管理ですが、外へ出たいとの素振りや声があれば付き添って出かけています。また、職員が交代で毎年外部研修に参加し、内部に落とし込み、理解を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、施設全体に向けて勉強会が行われ自主的に参加、勉強することが出来ている。管理者からの指導のもと、常に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は個々に研修で学べる。活用するのは主に相談対応する管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談にて、ご質問やご意見ご要望を伺い、そのあとも話が聞ける態勢を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面談時、面会に来た時に声をかけてご意見を伺ったり最近の様子を伝えさせてもらっている。	玄関前に設置された殺虫灯は事業所独自の家族アンケートの是正結果です。また面会時間に制限を設けていないことや、パッドや小遣いの持ち込みを奨励している点からも要望を聴く体制を整えていることが覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に相談する機会がありフロアミーティングにも参加してもらい、意見や質問をする機会がある。	毎朝全体ミーティング、月1回フロアミーティングを行い、情報共有と意見収束に努めています。管理者への相談も多く、必要であれば個別面談に切り替えてじっくり話を聴いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく通勤時間に終われるように協力し合うようにと指導があり、職員同士配慮し合っている。休日希望はすべて通っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番で行けるように配慮されていてみんな参加できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで同業者と交流することはある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家人から入所の時にいただいた情報と照らし合わせながら、困っている場面や不安な様子など見られたら本人に聞いたり職員室で話し合い、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の時、センター方式を使い過去から現在までの情報を詳しく記入して、不安がないように聞く時間をとっている。また面会の時などにも不安なことはないか声を掛けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族や施設行っていたサービスを聞き、本人が必要としているのか再チェックして、他の方法もないのか考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで生活してきた習慣なども考え、家での生活に近づくように注意している。また、雑談などゆっくりする時間も取り、荒だたさないようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時は現在の様子など詳しく話している。また、本人からの訴えなどあったときは家族と相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設と家が近い入居者には、顔馴染みの方が面会に来てくれる時もあり、帰所されるときにはまたの面会を楽しみにしていることをお話ししている。	定期的に訪れる遠方からのキーパーソンとの外食を楽しみにする人、親族の葬儀に伊豆まで泊がけで出かける人、馴染の美容院へと家族に連れだってもらう人、それぞれが在宅の頃からの縁を続けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなが集まる食堂は孤立させないように職員が間に入り会話が續くようにしたり、トラブルがあった時には、入居者同士が嫌な思いをしないように意見を聞き仲介するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院されたりする入居者があっても定期的に面会へ行ったり、ご家族と会ったりしてお話を聞く機会があり、相談に応じたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、生活歴などを詳しく聞き、今までの暮らし方や家人の意見に合うように、また、日常の行動や言葉に注意し、思いを汲み取るように努めている。	例えば外食の場合は予めメニュー表を借り、意向把握を十分としてスムーズな注文が叶っています。実施記録に書ききれないことは生活記録へ綴るとのエピソードからは、職員のひたむきさが伝わります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式にて生活歴や暮らし方、サービスの利用など入居時に聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を細かく時間を分けて記入し、一日の生活の様子を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員のミーティングを聞き、ケアの方法など意見を出し合い、必要であれば家人や本人と話し、相談しながら作成している。	モニタリング、見直しともに3ヶ月に1度をめやすとして、現状に添ったプランとしています。本人と家族の考えや意向が異なる場合は、理学療法士など他の専門職にも加わってもらい、合意形成につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にて、ケアの内容や気づきなどを記録し、申し送りにて、職員間にて情報を共有している。また、介護計画にも記録を読み返し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3ヶ月に1度、サービス内容を評価し、見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、スーパーへ買い物したり、外食ではレストランに行くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	十全病院が、かかりつけ医となっていて、定期的に受診している。	6週に一度かかりつけ医へ受診しており、家族からも「日頃の様子を知り得ている職員の受診支援がありありがたい」との声が届いています。看護師である管理者の細かな指導の下、バイタルチェックも毎日あります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日検温をし、血圧の高い人は、毎日血圧を計り、異変があった場合は看護師に相談し、指示をもらい対応してる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の十全病院なので、情報交換や相談は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人にとって居心地のいい場所はどこか考え、ご家族に相談・方針を決めるために面談の機会を設けるなどしている。	緊急時の連絡体制は書面とともに整備されています。家族の希望は尊重したいと思いつつも、職員教育は課題としていて、現時点では家族の安息のためにも系列病院への転所が最適と考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などマニュアルがあるので、看護師に日頃からアドバイスをもらっているが、訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。日中のみの訓練で、夜間は訓練をしていない。	法人の担当者が中心となり、隣接事業所との合同実施が慣行されています。夜間想定も含め、法定訓練が行われ、備蓄も隣接事業所に1週間ほど保管されています。防災ずきんは全員分を用意しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格に合わせた接し方、言葉を選び対応をしている。声の大きさにも注意している。	年1回法人でも研修会がありますが、事業所内でも月2回全員参加で接遇研修を行っていて、大事なこととしています。利用者が感情をそのまま出している様子から、信頼関係があることが受けとめられました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も職員が決めてしまうのではなく、入居者がどうしたいのか確認し、決定できない方には、どちらがいいのか職員が二つ選び決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせてゆっくりとわかるように声掛けし、時間も入居者の時間に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	画一的に支援するのではなく、それぞれの好みを把握し、おしゃれや身だしなみが出る環境づくりを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の昼食作りのメニューを一緒に考え、それぞれの出来る力に合わせて準備や片付け、調理などを行えるように支援している。	法人内の厨房でのメニューに手作りの汁物が常ですが、週1～2回すべて手作りという日を設けています。食材の買い出しも利用者の外出支援にもなっていて、「何を買おうか」「作ろうか」と楽しい時間があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも10時と15時にお茶の時間をとるようにしている。また、好みの飲み物を個別に用意したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に歯磨き、入れ歯洗浄、うがいを行ってもらっている。口臭あがある方にはうがい液を使用してもうことで改善されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はなるべくパンツにしている。トイレ誘導も、時間を決めて行っている。夜間は安眠のため、その人に合った排泄の方法で対応している。	オムツ使用の人がトイレ誘導で失敗が減った例もあります。日中は布パンで「トイレで」を旨とした支援を行い、また便座に長く座っていた人の希望に沿うことで便秘が解消されたこともあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外にも10時と15時にお茶の時間をとるようにしている。また、ヤクルトや牛乳、ヨーグルトなど自然な食べ物で排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい人には毎日入ってもらっている、また、入浴があまり好きではない人にも入浴剤を入れたり、ゆず湯にしたりと、気持ち良くはしてもらえ工夫をしている。	毎日湯をはり週2回をめやすにしていますが、「毎日」との希望があれば身体の状態も鑑み応ずる考えでいます。時間帯も自由で、夕方からの利用者もいます。職員との会話で湯にゆったり浸かることができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間も一人ひとりの生活習慣に合わせて、引き止めたりすることなく気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報はファイルにとじ、受診の内容も職員がわかるように記載して、薬や症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族から生活歴を聞き、嗜好品、習い事などを同じように出来る。または、その代わりになるようなことを、提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族で外出に行ったり、月一回外出できるように企画したり、お散歩も行きたい時には出かけられるようにしている。	「散歩に出たい」「買い物に行きたい」との要望には随時応えています。初詣、ピクニック、いちご狩り、運動会と外出レクリエーションの企画行事が豊富で、本人のみならず家族からも満足の声を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、おこずかいを預かり、職員が管理している。混乱をさけるため、あえて支払いをして頂いていない方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと、希望があればかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物をしたり、写真やおたよみなどを飾っている、玄関には季節の花を飾り、外出のたびに喜んでもらっている。	普段から掲示をはじめビジュアルにも気配りしていますが、3階建てのため花火大会は居ながらにしてみることが出来るメリットがありません。毎朝の換気と掃除は利用者も参加して生活リハビリにも叶い、職員は日に何度も消毒し、衛生管理を徹底させています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはいつも入居者たちが集い楽しくおしゃべりをしている。また、お昼後には、お昼寝をする方もいて自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、使いなれた家具や写真、飾り物など家に近い配置にするなど工夫している。	ベッドに慣れない人は布団を持ち込んだり、床にカーペットを敷いていて、自由度の高さを視認しました。植木鉢を育てている人や、趣味の人形を並べて眺めを楽しむ人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に名前と、いつくしみで撮った自分の写真を貼っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人明徳会		
事業所名	グループホーム いつくしみの郷 2F		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyouvoCd=2278300311-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成26年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くに病院があり、緊急時にはいつでも受診ができるように連携をしている。ホームの北側は田園風景が広がっており、景色が良い。(毎年8月にホームから花火大会が観覧できる)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が病院であることからの医療体制の安心と職員の朗らかで丁寧な対応が自慢の事業所です。糖尿病の利用者への食事提供及び環境に気遣う様子や、入退院からの利用者がミキサー食から一口サイズなら固形摂取できるようになったケースなど、看護師である管理者の下、裏付けのある確実な取組みが行われています。また、恒例行事のいちご狩りをはじめ月2回の外出支援は利用者本人だけでなく、家族の満足にもなっていることが外部評価のアンケートでも確認されていて、事業所が力を入れていることの一つです。昨年は重度化率が高くなりいったん実施が減りましたが、今年は気持ちを新たにに取り組む予定です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気持ちの良い生活」を理念としている。プラン立案時やサービス提供で迷った時などは理念を念頭に置き検討をしている。	プラン作成といった職員が集う場では、理念が話材となるほど浸透しています。長く働く職員が増えるなか、それでも馴れ合いを出さずに利用者本位のケアがあると管理者は捉えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺の散歩にて近隣の方や通学の子供たちと挨拶を交わしている。近隣のスーパーや公園などへ行ったり、行事(納涼祭)などを通して、交流の場としている。	2ヶ月に1度発行のいくくしみ便りのほか、母体と合同で納涼祭も開催され地域に向けた発信に努めています。生徒の福祉体験も継続していますが、本年度は看護実習生も受入れており、さらなる前進がみられます。	地域からの出入りが日々活性化するよう、ボランティアの受入を増やすことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会用のおたよりを回覧することで、認知症の理解や支援、協力を頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、地域の代表の意見を今後のサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、地域包括支援センター・区役所職員、家族代表の参加を得て、隔月開催が成されています。具体的な事案を通して方針を理解してもらえ、貴重なアドバイスもあり、事業所の運営に役立っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂き、疑問や相談はその際することが多い。事前のご案内も直接届けに伺い、その際報告書もお渡しするようにしている。	運営推進会議に毎回参加してもらっていて、また議事録も届けているため、顔なじみとなり相談しやすい関係にあります。介護相談員の来訪もあり、利用者のよき話し相手として、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。施設内だけの生活にせず、定期的に外食やピクニックへ行っている。希望があった場合は随時散歩や買い物など外へ出来る機会を作っている。	エレベーターも玄関ドアも職員管理ですが、外へ出たいとの素振りや声があれば付き添って出かけています。また、職員が交代で毎年外部研修に参加し、内部に落とし込み、理解を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	資料を読んだり、研修会に参加し学んでいる。虐待が見過ごされることのないようお互いに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加する等して学んでいる。個々の必要性を皆で話し合い、必要な利用者には活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の話を十分に聞いて、理解、納得の上で行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面談や面会などで家族等の意見が十分にかがえるような関係作りに努力している。	玄関前に設置された殺虫灯は事業所独自の家族アンケートの是正結果です。また面会時間に制限を設けていないことや、パッドや小遣いの持ち込みを奨励している点からも要望を聴く体制を整えていることが覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を言いやすい場や時間を確保してもらっている。	毎朝全体ミーティング、月1回フロアミーティングを行い、情報共有と意見収束に努めます。管理者への相談も多く、必要であれば個別面談に切り替えてじっくり話を聴いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年に一度各自で目標を立て、向上していけるようにしている。職員が無理なく働くことが出来るように希望等も受け入れ、勤務を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に応じた研修へ随時参加している。働きながら、必要な知識や技術を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等へ参加し、同業者と交流する場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の家族、本人からの情報収集や日々の生活の中から聞き出せるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に面談の場を設け、家族の要望、不安に思っていることはないか確認している。又、面会の際にも困りごとはないか声を掛けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族とよく話し、情報の聞き、その時必要としている支援を提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上からの目線ではなく、対等な立場で会話ができるように心掛けている。お互いに助け合い家族のような関係になれるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もチームの一員であることを面談の場等でお伝えし、家族の役割を伝え、協力をして頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面談の制限は基本的にしていない。今までのなじみの関係が継続できるように支援している。	定期的に訪れる遠方からのキーパーソンとの外食を楽しみにする人、親族の葬儀に伊豆まで泊がけで出かける人、馴染の美容院へと家族に連れだってもらう人、それぞれが在宅の頃からの縁を続けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士で話ができるように食堂の席を工夫している。お互いの居室の行き来もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院先へ面会に行く等なじみの関係を継続してる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に今の暮らしはどうか？困ったことはないか？など一人一人に聞くようにしている。困難な場合は本人の立場になって考えるようにしている。	例えば外食の場合は予めメニュー表を借り、意向把握を十分としてスムーズな注文が叶っています。実施記録に書ききれないことは生活記録へ綴るとのエピソードからは、職員のひたむきさが伝わります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や日常生活の会話から把握し、なるべくそれに近い生活ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のようすを記録し、心身の状態やできる力などの把握に役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を立てている。	モニタリング、見直しともに3ヶ月に1度をめやすとして、現状に添ったプランとしています。本人と家族の考えや意向が異なる場合は、理学療法士など他の専門職にも加わってもらい、合意形成につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のようす、ケアの実践の結果を記録し、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに柔軟に対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の公共施設を把握して、地域資源を利用し、暮らしが豊かになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診し、適切な医療が受けられるようにしている。	6週に一度かかりつけ医へ受診しており、家族からも「日頃の様子を知り得ている職員の受診支援がありありがたい」との声が届いています。看護師である管理者の細かな指導の下、バイタルチェックも毎日あります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に入居者の健康状態や医療面での相談、助言、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に受診し、病院との情報交換、相談をしながら、安心して入院、早期退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望に添えるように、また体調についても十分に話し合い、連絡し、ホームでできることまでは職員で協力し支援している。	緊急時の連絡体制は書面とともに整備されています。家族の希望は尊重したいと思いつつも、職員教育は課題としていて、現時点では家族の安息のためにも系列病院への転所が最適と考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応している。しかし、応急手当や初期対応の訓練については行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練にていざという時の対応の仕方を学んでいる。地域には協力して頂くようお願いをしている。	法人の担当者が中心となり、隣接事業所との合同実施が慣行されています。夜間想定も含め、法定訓練が行われ、備蓄も隣接事業所に1週間ほど保管されています。防災ずきんは全員分を用意しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なじみの関係になっても、馴れ合いの関係になってしまわないように、常に年長者であることを頭に入れ対応している。個々の性格を考慮し、その人に合った声掛けに注意している。	年1回法人でも研修会がありますが、事業所内でも月2回全員参加で接遇研修を行っている、大事なこととしています。利用者が感情をそのまま出している様子から、信頼関係があることが受けとめられました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定権は本人であるということを念頭に支援している。本人の気持ちや意見が言えるような雰囲気や関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やペースに合わせ過ぎないように対応をしている。多忙な時は職員の都合が優先してしまうこともあり、今後の課題である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれに好みの服や化粧品、スカーフなどを用意しおしゃれが楽しめるようにしている。月に一回、美容師に来てもらい希望がある場合は髪をカットすることができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、食事、片付けを利用者と一緒に行っている。昼食つくりの時は何を食べたいか話題にし、一緒に決めている。	法人内の厨房でのメニューに手作りの汁物が常ですが、週1～2回すべて手作りという日を設けています。食材の買い出しも利用者の外出支援にもなっていて、「何を買おうか」「作ろうか」と楽しい時間があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し、不足したり、摂りすぎて体調を崩すことがないように注意をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には必ず口腔ケアを行うようにしている。うがい液なども使い、口臭予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を利用し、なるべく日中は紙パンツやパットを使用しなくてもいいように、トイレで排泄ができるよう、一人ひとりの状況に合わせ、時間を決めて声掛け、誘導をしている。	オムツ使用の人がトイレ誘導で失敗が減った例もあります。日中は布パンで「トイレで」を旨とした支援を行い、また便座に長く座っていた人の希望に沿うことで便秘が解消されたこともあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認している。繊維質の多い食材を使用した献立を工夫したり、乳酸飲料や十分な水分の確保を心掛けている。体操や散歩など運動不足にならないように注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その人の生活のタイミングや希望に合わせて入浴ができるように配慮している。	毎日湯をはり週2回をめやすにしていますが、「毎日」との希望があれば身体の状態も鑑み応ずる考えでいます。時間帯も自由で、夕方からの利用者もいます。職員との会話で湯にゆったり浸かることができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動し、夜間良眠できるように支援をしている。体力、年齢、病気等を考慮して昼間でも休息ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報に目を通し、内服の目的や副作用等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの好きなこと、出来ること、役割などホームで活躍ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的にはいつでも外出、外泊は可能。散歩や買い物の際は、なるべく本人の希望のところへ行くようにしている。	「散歩に出たい」「買い物に行きたい」との要望には随時応えています。初詣、ピクニック、いちご狩り、運動会と外出レクリエーションの企画行事が豊富で、本人のみならず家族からも満足の声を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある利用者は手元にある程度の金額を持ち、自分で管理をしている。買い物の際、自分の財布から支払いをする方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話、手紙のやりとりができるように支援している。ホーム事務所の電話はいつでも使用可能にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし清潔な空間が保てるようにしている。季節の行事に合わせた飾りや花を飾り、温かみのある空間作りをしている。共用空間の温度や光の調節をし、居心地良く過ごせるようにしている。	普段から掲示をはじめビジュアルにも気配りしていますが、3階建てのため花火大会は居ながらにしてみることが出来るメリットがあります。毎朝の換気と掃除は利用者も参加して生活リハビリにも叶い、職員は日に何度も消毒し、衛生管理を徹底させています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室となっている。仲の良い利用者同士でお互いの居室を行ったり来たりしている。又、食堂の席はなるべく気の合う人が近くなるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や生活用品は馴染みの物、本人の好みの物を使用して頂いている。家具の配置も本人が過ごしやすいように工夫している。	ベッドに慣れない人は布団を持ち込んだり、床にカーペットを敷いていて、自由度の高さを視認しました。植木鉢を育てている人や、趣味の人形を並べて眺めを楽しむ人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室までの案内を表示するなど自分でわかる、できる環境作りに努めているのと同時に安全に過ごせるように整えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	明徳会		
事業所名	いつくしみの郷 3F		
所在地	浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosoCd=2278300311-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成26年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体病院がすぐそばにあり、いつでも受診できる。
 夜間の救急体制が万全である。
 豊かな田園風景の中で、のんびり暮らすことができる。
 毎月、季節を意識した行事を取り入れ、毎月写真付きのおたよりを利用者様及びご家族様に発行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が病院であることからの医療体制の安心と職員の朗らかで丁寧な対応が自慢の事業所です。糖尿病の利用者への食事提供及び環境に気遣う様子や、入退院からの利用者がミキサー食から一口サイズなら固形摂取できるようになったケースなど、看護師である管理者の下、裏付けのある確実な取組みが行われています。また、恒例行事のいちご狩りをはじめ月2回の外出支援は利用者本人だけでなく、家族の満足にもなっていることが外部評価のアンケートでも確認されていて、事業所が力を入れていることの一つです。昨年は重度化率が高くなりいったん実施が減りましたが、今年は気持ちを新たに取組む予定です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 3F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げ常に意識し、日々努力している。	プラン作成といった職員が集う場では、理念が話材となるほど浸透しています。長く働く職員が増えるなか、それでも馴れ合いを出さずに利用者本位のケアがあると管理者は捉えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中や病院等で近所の方に会ったときは挨拶をしている。毎年近隣施設の納涼祭や文化祭に参加している。	2ヶ月に1度発行のいつくしみ便りのほか、母体と合同で納涼祭も開催され地域に向けた発信に努めています。生徒の福祉体験も継続していますが、本年度は看護実習生も受入れており、さらなる前進がみられます。	地域からの出入りが日々活性化するように、ボランティアの受入を増やすことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回町内会用のおたよりを発行しており、認知症の人の理解や支援方法を、地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の入退去情報や生活の様子を報告している。会議で出た意見は、サービス向上に活かしている。	自治会長、民生委員、地域包括支援センター・区役所職員、家族代表の参加を得て、隔月開催が成されています。具体的な事案を通して方針を理解してもらえ、貴重なアドバイスもあり、事業所の運営に役立っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、意見交換をしている。	運営推進会議に毎回参加してもらっていて、また議事録も届けているため、顔なじみとなり相談しやすい関係にあります。介護相談員の来訪もあり、利用者のよき話し相手として、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努めている。エレベーターの操作は、入居者の安全のために常時職員が行っているが、外に出たい時にえられるよう支援している。	エレベーターも玄関ドアも職員管理ですが、外へ出たいとの素振りや声があれば付き添って出かけています。また、職員が交代で毎年外部研修に参加し、内部に落とし込み、理解を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加している。常に気を付けてケアに取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果 3F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会がある。成年後見制度については、利用している方がいるので身近に思う。必要だと思われる方がいれば支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に面談を行っている。入居後も、面談や面会時等いつでも話ができるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面談や面会時にご家族の意見や要望を聞いている。また、書面にて運営推進会議のお知らせやアンケート送付によりご家族から意見を聞き運営に反映させている。入居者の意見は常に聞くようにしている。	玄関前に設置された殺虫灯は事業所独自の家族アンケートの是正結果です。また面会時間に制限を設けていないことや、パッドや小遣いの持ち込みを奨励している点からも要望を聴く体制を整えていることが覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と会う機会が多くよく話を聞いてもらっている。	毎朝全体ミーティング、月1回フロアミーティングを行い、情報共有と意見収束に努めています。管理者への相談も多く、必要であれば個別面談に切り替えてじっくり話を聴いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月希望休日を通してくれる。労働時間が長い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番で研修に参加できるようにしてもらっている。資格取得をすすめてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で同業者と交流する機会があり、意見交換をしサービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果 3F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傍に寄り添いコミュニケーションをとり、安心してもらえるよう支援している。周りの入居者ともコミュニケーションがとられるよう職員が橋渡しをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談にてじっくり話を聞いている。面会時にもご本人の生活の様子をお伝えし、ご家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族とのコミュニケーションの中で出た意見や要望等も含めケアに取り組み、その人らしく生活できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは極力やってもらうようにしている。お互いが必要とされる関係作りに努めている。人生の先輩として教わることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に生活の様子をお伝えしたり、フロア行事に参加する機会をつくっている。ご家族と職員の繋がりも大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から外出等の要望があれば自由にしてもらっている。フロア行事で外出する際、自宅の近所や馴染みの場所を通ることもあり、懐かしんでもらっている。	定期的を訪れる遠方からのキーパーソンとの外食を楽しみにする人、親族の葬儀に伊豆まで泊がけで出かける人、馴染の美容院へと家族に連れだってもらう人、それぞれが在宅の頃からの縁を続けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようできるだけ気の合う仲間同士でいられるよう食堂の席等配慮している。他者との関わりがもてるよう職員が橋渡しをしている。		

自己評価および外部評価結果 3F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合は入居者とお見舞いに行くようにしている。中には退去後もご家族と来てくれたり、仲間と一緒にコーラスを披露しに来てくれる方もいるので、これからもそういう関係性を大切にいく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人の意見を傾聴している。また、日頃の言動からも思いを汲み取れるよう心がけている。	例えば外食の場合は予めメニュー表を借り、意向把握を十分としてスムーズな注文が叶っています。実施記録に書ききれないことは生活記録へ綴るとのエピソードからは、職員のひたむきさが伝わります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し情報を得ている。その後も新しく得た情報は記録し、職員全体で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い異常がないか注意し観察している。個々の生活リズムを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティングで話し合ったりご家族とも話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリング、見直しともに3ヶ月に1度をめやすとして、現状に添ったプランとしています。本人と家族の考えや意向が異なる場合は、理学療法士など他の専門職にも加わってもらい、合意形成につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日生活記録を記入し職員全体で情報共有している。実践や介護計画の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対応できるよう努めている。3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。		

自己評価および外部評価結果 3F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月周辺の公共施設へ出かける機会をつくっている。季節や天候に合わせ、その時に適した場所へ行けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体である十全病院へ定期的に受診している。何かあれば随時受診できる状態である。	6週に一度かかりつけ医へ受診しており、家族からも「日頃の様子を知り得ている職員の受診支援がありありがたい」との声が届いています。看護師である管理者の細かな指導の下、バイタルチェックも毎日あります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良等の異変を感じたら看護師に報告、相談している。指示があれば受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医へ入院することが多いので連絡をとりやすい環境にある。病院関係者との関係づくりは管理者を中心にできており、職員も受診に付き添うことで顔見知りになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人にとって最適なケアができるように支援している。ホームでできることはできるだけ支援している。	緊急時の連絡体制は書面とともに整備されています。家族の希望は尊重したいと思いつつも、職員教育は課題としていて、現時点では家族の安息のためにも系列病院への転所が最適と考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが訓練は行っていない。看護師とは常に連絡がとれる状態なので、何かあればすぐに連絡し指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、法人内の避難訓練に参加している。いざという時のことを考えると不安が大きい。	法人の担当者が中心となり、隣接事業所との合同実施が慣行されています。夜間想定も含め、法定訓練が行われ、備蓄も隣接事業所に1週間ほど保管されています。防災ずきんは全員分を用意しました。	

自己評価および外部評価結果 3F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや態度には特に注意している。トイレ誘導時の声かけでは、声の大きさに気をつけている。	年1回法人でも研修会がありますが、事業所内でも月2回全員参加で接遇研修を行っていて、大事なこととしています。利用者が感情をそのまま出している様子から、信頼関係があることが受けとめられました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を築き話しやすい環境作りに努めている。無理強いないよう気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間等、個々のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服は極力ご本人に選んでもらっている。毎朝眉ペンでおしゃれをする方もおり、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食事準備はできる方と一緒にしている。食事形態も個々に合わせている。週1回の食事作りも献立を決めるところからお互い協力している。	法人内の厨房でのメニューに手作りの汁物が常ですが、週1~2回すべて手作りという日を設けています。食材の買い出しも利用者の外出支援にもなっていて、「何を買おうか」「作ろうか」と楽しい時間があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量を記録している。まめに水分補給をし、脱水症状にならないよう気をつけている。食事量が十分でない時はドリンクタイプのカロリーメイト等を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きをする方もいるが、ほとんどの方は夕食後にしてもらっている。義歯の方は毎晩ポリデントで洗浄している。		

自己評価および外部評価結果 3F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じ排泄記録を付け、トイレ誘導をしている。日中はなるべく布パンツで生活できるよう支援している。日中の失禁がほぼなくなった方もいる。	オムツ使用の人がトイレ誘導で失敗が減った例もあります。日中は布パンツで「トイレで」を旨とした支援を行い、また便座に長く座っていた人の希望に沿うことで便秘が解消されたこともあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトや粉末の食物繊維を活用している。散歩や体操等、体を動かす時間を毎日つづけている。下剤は個々に合わせて調整している。薬に頼りすぎないよう気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望時間帯に入浴できるよう支援している。施設で介助用の椅子を購入し入居者、職員の負担が減り、より快適に入浴できるようになった。	毎日湯をはり週2回をめやすにしていますが、「毎日」との希望があれば身体の状態も鑑み応ずる考えでいます。時間帯も自由で、夕方からの利用者もいます。職員との会話で湯にゆったり浸かることができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ日中休息をとる方もいる。冬は湯たんぽを使う方も多く、個々に合わせ安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を確認している。誤薬のないよう注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等のお手伝いは一人ひとりできることを行ってもらえるよう支援している。余暇時間もぬりえや散歩など好きなことをして過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や職員からの呼びかけで外に出られるよう支援している。月に1、2回は外出やピクニック、買い物に出かけている。ご家族と外出する方もいる。	「散歩に出たい」「買い物に行きたい」との要望には随時応えています。初詣、ピクニック、いちご狩り、運動会と外出レクリエーションの企画行事が豊富で、本人のみならず家族からも満足の声を得ています。	

自己評価および外部評価結果 3F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族の許可を得て職員が行っている。買い物に行く時は、できる方には見守りのもと自分で支払ってもらおう等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば常時電話を使えるようにしている。毎年ご家族に年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った物や写真を飾る等雰囲気づくりに努めている。状況に合わせて除湿や加湿、温度調整を常に居心地よく過ごせるよう支援している。	普段から掲示をはじめビジュアルにも気配りしていますが、3階建てのため花火大会は居ながらにしてみる事ができるメリットがあります。毎朝の換気と掃除は利用者も参加して生活リハビリにも叶い、職員は日に何度も消毒し、衛生管理を徹底させています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファを置き仲の良い方同士で楽しく過ごせるようにしている。食堂から死角になっている場所もあり、窓から外を眺めたりそこでお喋りをする方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、なるべく使い慣れたものを持ってきてもらうようお願いしている。	ベッドに慣れない人は布団を持ち込んだり、床にカーペットを敷いていて、自由度の高さを視認しました。植木鉢を育てている人や、趣味の人形を並べて眺めを楽しむ人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備に努めている。自分で自由に動けるよう見守りを強化しており自立支援に努めている。		